

災害時にも自宅で生活できるように準備しましょう

備蓄食料のイメージ



災害はいつ起こるか分かりません。災害時に備え、7日分の食料や水、備蓄品を準備しておきましょう。

問い合わせ 危機管理課 伊藤 ☎③0056

【家庭内での備蓄品の一例】

▶飲料水(1人1日3リットルが目安)▶食料品(ごはん、ビスケット、板チョコ、乾パンなど7日分)▶衣類、下着、靴下▶トイレトーパー、ティッシュペーパー▶マッチ、ろうそく、カセットコンロ▶携帯トイレ、簡易トイレ(1人1日5回が目安)▶ビニールシート、ロープ、ガムテープ など

【いざという時の持出品の一例】

▶飲料水▶食料品(カップ麺、缶詰など)▶貴重品(通帳、現金、保険証など)▶救急用品(ばんそうこう、常備薬など)▶懐中電灯、乾電池、携帯充電器▶マスク、軍手、タオル▶雨具、毛布▶衛生用品(水のいらないシャンプー、マウスウォッシュなど)▶生理用品▶熱中症、防寒対策用品(日傘、防寒着など) など

停電時の対策をしましょう

9月に発生した台風15号の影響により、市内でも広範囲にわたって停電がありました。停電が発生したら、「コンセントを抜く」、「ブレーカーを落とす」などして電気の復旧後の漏電・火災などを未然に防ぎましょう。停電時の暑さ・寒さ対策も欠かせません。また、発電機を屋内で使用すると一酸化炭素中毒になる危険性があるため、絶対に屋内では使用しないでください。市には、地震の揺れを感じた際に自動的にブレーカーが落ちる「感震ブレーカー」の設置に関する補助金制度があります。災害時の家庭での備えとして、ぜひお役立てください。

警報・注意報をよく確認しましょう

警報・注意報は、気象庁が強風や大雨などの災害が起こる恐れがある場合、注意を呼びかけるために発表する予報です。台風15号の際にも発表された「竜巻注意情報」は、竜巻や激しい突風が予測されるときや目撃情報が得られて竜巻などが発生する恐れが高まったと判断した場合に発表されています。



「竜巻注意情報」が発表されたら、まず空を確認

周りの天気が次のように変わってきている場合には積乱雲が近づいているので、直ちに安全確保が必要です。

▶真っ黒い雲が近づき、周囲が急に暗くなる。▶雷鳴が聞こえたり、雷が見えたりする。▶ひやっとした冷たい風が吹き出す。▶大粒の雨やひょうが降り出す。

いざというときには自らの安全を確保してください

▶頑丈な建物の中に早めに避難する。▶物置や車庫などは建物ごと壊される危険があるため離れる。▶窓やカーテン、雨戸を閉め、窓のない部屋に移動する。窓ガラスから遠く離れる。▶丈夫な机の下に入ったり、両腕で頭や首を守る。▶屋外にいて周辺に身を守る建物がない場合は、水路などくぼんだところに身を伏せる。

災害用トイレを備蓄しましょう

巨大地震が発生した際には、水道管が破損し断水が生じ、トイレが使用できなくなります。昨年の能登半島地震では、断水・停電によりトイレが使えない状況が長期化し、避難所などの衛生問題が発生しました。家庭や地域では簡易トイレや携帯トイレ(便袋・凝固剤)を備蓄しましょう。もし、市販の簡易トイレや携帯トイレを用意するのが難しい場合は、ポリ袋と新聞紙を組み合わせたなど、簡易的な代用品をうまく使い、無理のない範囲から備蓄を始めてみましょう。

災害用トイレの種類

- 【簡易トイレ】移動可能で、便座部分を備えたもの
- 【携帯トイレ】洋式便器に設置し、し尿をためる便袋・凝固剤
- 【仮設トイレ】トイレ室と便器が一体になっているもの



市制施行20周年記念事業 第59回 全日本サーフィン選手権大会

①②技を披露し競い合う選手③ロングボードに乗る市民サーファー④SMキッズクラスの表彰式⑤大会を楽しむ来場者⑥復興支援の寄附金を募った⑦各支部員で交流する様子も⑧20支部が熱戦を繰り広げた「パドルレース」は大盛況⑨広場ではキッチンカーなどが出店⑩沿道に市制施行20周年と歓迎の旗が並び大会を盛り上げた

問い合わせ 観光課 齋藤 ☎(53)2623

市では、旧榛原町での開催(2001年)以来24年ぶり、市としては初開催。大会には9月の台風15号で被災した地区への「復興への願い」も込められており、多くの方々の協力で開催が実現しました。期間中、天候不良が続きましたが、選手が見事な演技を見せると会場は声援や拍手で盛り上がりました。また、同連盟が台風15号に関する市への寄附金を募ったほか、キッチンカーの出店や市のPRブースなどが設置されました。市では、今後も「サーフィンのまちまきのほら」として地域の魅力を発信し、スポーツを通じた地域活性化と復興の後押しに取り組んでいきます。

